

令和5年度大谷場中学校だより



おおやば

第3号

令和5年6月1日(木)発行

学校教育目標

「より高く、より広く、より深く、より強く」

さいたま市立大谷場中学校

〒336-0016 さいたま市南区大谷場 2-13-54 TEL.882-9962

HP: <https://oyaba-j@saitama-city.ed.jp/> MAIL: oyaba-j@saitama-city.ed.jp

「認め合い、助け合い、そして素晴らしい成果を」

校長 八坂和典

若葉輝く5月と本格的に暑くなる7月の間の6月は、梅雨入りの知らせが全国から聞かれるようになります。この頃に吹く風を「黒南風」(くろはえ)と呼び、梅雨入りの頃は、この風が吹いて空が暗くなるというのがこの名の由来だそうです。梅雨入りと聞くと重苦しく感じますが、本来は私たちや自然界において「恵みの雨」、心穏やかに梅雨が明けのを待ちたいものです。

さて、先月、3年生とともに京都・奈良への修学旅行に行ってきました。多少の雨や寒暖差もありましたが、古都を感じ、埼玉にはない愛(かち)に触れ、様々な学びのある修学旅行を実施することができました。また、社会という場を借りての学習でしたが、他に恥じることない立派な姿と態度で実施できたことも大きな成果の一つとなりました。義務教育9年間の集大成として3年生生徒一人ひとりが、「誰もが行ってよかったと思える活動にする」こと、「皆にとってよき思い出にする」こと等を考えながら責任ある行動、自主的・自律的な行動、自分事だけでなく、周囲にいる人の思いも考え行動する「チーム大谷場」としての成果がそこにありました。この修学旅行で得た成果を今後の学校生活の中でしっかりと活かしていきましょう。6月3日(土)からは、いよいよ3年生運動部の生徒にとっては最後の大会となる市学校総合体育大会が実施されます。また、24日(土)には体育祭があります。この2つの体育的行事で素晴らしい成果を残すためにも今回3年生が修学旅行で発揮した、目標を共有し、一つの方向に向かって、互いに認め合い、助け合える「チーム力」が大切となります。3年生と修学旅行に行っている際に以前、私が勤務していた学校の尊敬する校長先生に紹介してもらった宮大工の棟梁の本のお話を思い出したので皆さんに紹介します。

木にはそれぞれ癖があり、一本一本違います。産地によって、又同じ山でも斜面によって変わります。まっすぐ伸びる木もあれば、ねじれる木もある。材質も堅い、粘りがあると様々です。木も人間と同じ、生き物です。今の時代、何でも規格を決めて、それに合わせようとする。合わせないものは切り捨ててしまう。人間の扱いも同じだと思います。法隆寺が千年の歴史を保っているのも、みな癖木を上手に使って建築しているのです。

棟梁というものは何かと言いましたら、「棟梁は木の癖を見抜いてそれぞれを適材適所で使う」ことやね。建築は大勢の人間が寄らんとできんわな。そのためにも「木を組むには人の心を組む」というのが、まず棟梁の役割ですな。職人が50人おったら50人が私と同じ気持ちになってもらわんと建物はできません。

※『木に学べ 一法隆寺・薬師寺の美一』 著者: 西岡 常一 (にしおか つねかず)

この話の内容のとらえ方は人それぞれかもしれませんが、木を人に例えると人が持っている個性や役割を認めながら、助け合うことの大切さや同じ目標を共有し、同じ気持ちになって目標達成に向けて頑張ることの大切さを語ってくれているお話だと私は感じています。クラスには運動が得意な人もいれば、運動が苦手な人もいるようにみんな違いますが、体育祭では、互いに認め合い、助け合いながら行う必要があります。市の学校総合体育大会でも、レギュラーの人だけが頑張ってもよい成果は出ません。すべての部員が今チームのために自分にできることを精一杯行いながら、力を合わせて取り組まないといけません。一人ひとりの部員のよさが出てこそ素晴らしい成果が出ると思います。過日行われた、サッカーのワールドカップや野球のベースボールクラシックで日本代表選手が見せたチームとしての一体感は世界に誇る日本の強みです。ぜひ、大谷場中学校の生徒の皆さんにも「互いに認め合い、助け合えるチーム大谷場」の底力をみせ、市学校総合体育大会や体育祭では自分たちなりの成果を残せるように全力で頑張ってもらいたいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様、大谷場中の生徒の活躍を楽しみに応援等をお願いいたします。